



2019年5月13日

各 位

株式会社 サカイホールディングス  
 代表取締役社長 肥田 貴将  
 (JASDAQ:コード番号 9446)  
 問合先 常務取締役管理本部長  
 兼経理部長 田川正彦  
 電話番号 052(262)4499

## 2019年9月期第2四半期累計期間連結業績予想との 差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2019年9月期(2018年10月1日～2019年9月30日)の業績予想について、2018年11月12日付当社「2018年9月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記の通り修正いたします。

### 1. 2019年9月期 第2四半期累計期間連結業績予想との差異及び通期連結業績予想の修正

#### (1) 第2四半期(累計)(2018年10月1日～2019年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期当期 純利益
前回予想(A)	9,805	434	340	187
実績(B)	8,672	390	295	180
増減額(B-A)	△1,133	△44	△45	△7
増減率	△11.6%	△10.1%	△13.2%	△3.7%
(ご参考)前期の 実績(2017年10 月1日～2018年 3月31日)	10,199	511	440	277

#### (2) 差異発生理由

当第2四半期連結累計期間につきましては、2018年11月12日付で、売上高98億5百万円、営業利益4億34百万円、経常利益3億40百万円、親会社株主に帰属する当期(第2四半期連結累計期間)純利益1億87百万円の業績予想を発表いたしました。移動体通信機器販売関連事業において携帯端末の販売台数が前年同期比27.1%減少(前回予想時と比較して22.1%減少)いたしました。

但し、親会社である株式会社サカイホールディングス及び他の子会社である株式会社セ

ントラルパートナーズ、エスケーアイマネージメント株式会社、エスケーアイ開発株式会社につきましては、売上高は計画通り推移しております。

したがいまして前述の内容から売上高は前回予想より 11 億 33 百万円減少（前回予想比 11.6%減少）いたしました。

また、各利益につきましては、移動体通信機器販売関連事業において、売上高は減少したものの、利益率の高い販売構成に改善を図り、利益確保に向けた積極的な営業施策が奏功しており、各利益への寄与が継続するものと予測され、各事業においても予想通りの利益確保を想定しているため、当初計画の修正は行っておりません。

なお、当第 2 四半期連結累計期間につきましては、売上高を 98 億 5 百万円（同予想比 11 億 33 百万円減）に修正しておりますが、営業利益 4 億 34 百万円、経常利益 3 億 40 百万円、親会社株主に対する当期（第 2 四半期連結累計期間）純利益 1 億 87 百万円につきましては修正しておりません。

### （3）通期（2018 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
前回予想（A）	18,832	875	698	380
今回修正（B）	16,576	875	698	380
増減額（B-A）	△2,256	0	0	0
増減率	△12.0%	—	—	—
（ご参考）前期 の実績（2017 年 10 月 1 日～2018 年 9 月 30 日）	18,842	866	722	350

### （4）修正理由

通期につきましては、2018 年 11 月 12 日付けで、売上高 188 億 32 百万円、営業利益 8 億 75 百万円、経常利益 6 億 98 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益 3 億 80 百万円の業績予想を発表いたしましたが、移動体通信機器販売関連事業において携帯端末の販売台数が当第 2 四半期連結累計期間で前年同期比 27.1%減少しており、第 3 四半期以降につきましても、市場の動向から販売台数の減少基調が継続するものと想定しております。

また、各利益につきましては、移動体通信機器販売関連事業において、利益確保に向けた積極的な営業施策が奏功し、各利益への寄与が継続するものと予測されるため、当初計画の修正は行っておりません。

したがいまして、通期につきましては、売上高は前回予想より 22 億 56 百万円減少し 165 億 76 百万円に修正しておりますが、営業利益の 8 億 75 百万円、経常利益 6 億 98 百万円、および親会社株主に帰属する当期純利益 3 億 80 百万円につきましては修正しておりません。

以上